

法医神経病理デジタルアーカイブの構築と運用：第一報

新井信隆¹⁾²⁾³⁾ 植木信子¹⁾²⁾ 八木朋子¹⁾²⁾ 小松亜由美³⁾ 加世田莉奈³⁾ 上村公一³⁾ 鵜沼香奈³⁾

- 1) 一般社団法人デジタル神経解剖病理フォーラム
- 2) 株式会社神経病理 Kiasma&Consulting
- 3) 東京科学大学法医学分野

【背景と目的】組織病理のデジタル画像を活用したアーカイブは研究のみならず人材育成や専門職の生涯学習の観点からも有益である。我々は神経系の正常解剖や病理像のデジタル情報を搭載した標本アーカイブを主にインターネットを介して発信することで、ユーザビリティの高い情報提供を可能とする社会を実現することを目指している。今回はガラス標本をルーチンでバーチャルスライド化している法医学講座の協力を得ることができたため、法医神経病理デジタルアーカイブのコンソーシアムを今後構築してゆくキックオフの取り組みを紹介する。

【方法と結果】専用 WEB サーバ（メモリ 8G CPU:仮想 6Core HDD:800GB）を用意し、サーバセキュリティ監視及びアップデート、通信暗号化設定及び状況監視を含むソフトウェア運用を開始した。また、登録ユーザ専用ルームの運用を実現するためにコンテンツマネジメントシステムの一つである Connect-CMS を導入した。専用 WEB サーバには各ユーザー専用のルームエリアを作成しオンデマンドなコンテンツ編集を行い、それぞれの利便を最大限に追求する仕様を目指した。初期のトライアルは東京科学大学法医学分野と共同で行いオリジナルドメインを割り当てた。主なコンテンツとして、脳脊髄の外観の見方（未固定と固定後の見え方の違いも含む）、未固定でのサンプリングの推奨方法、固定後のいわゆるブレインカッティングおよびサンプリングの推奨方法、代表的な組織病理所見の見方、医学部生への講義資料、解剖例の診断書の解説資料などをアップロードした。これらもシステムの利便について内部レビューを行い、概ね良好な評価を得た。【まとめ】今回は東京科学大学との協力でスタートしたが、今度さらに発展させてゆくために多くの大学や学会を含む協力機関を募ってゆきたい。